





## 病害虫発生予察情報予報第10号

佐賀県農業技術防除センター

### I. 予報の概要および各作物の特記事項

作物名	病害虫名 <sup>注1)</sup>		1月の予想発生量 <sup>注2)</sup>		病害虫防除のてびきの記載頁 <sup>注3)</sup>	予報対象の病害虫(抜粋)
			平年比	前年比		
タマネギ	べと病	早生マルチ	多	多	260~262	
		中晩生	多	多		
<p>1. <b>べと病</b> 本圃での一次伝染を抑えるため、定植後にジャストフィットフロアブルとザンプロDMフロアブルを計画的に散布する。また、罹病株の発生を認めた場合は、直ちに抜き取って圃場外へ持ち出して処分する(平成30年11月28日付け病害虫対策資料第10号参照)。</p> <p>2. <b>細菌性病害(腐敗病等)</b> 細菌性病害の発生がみられるので、発生初期の防除を徹底する。</p>						
イチゴ(本圃)	ハダニ類	やや多	並	208~209		ハダニ類
	うどんこ病	やや少	並	198~200		
	灰色かび病	多	多	201~202		
	アブラムシ類	多	多	213~214		
<p>1. <b>ハダニ類</b> 一部の圃場で発生が認められる。発生初期に防除を徹底する。また、天敵を利用する圃場では有効薬剤によりハダニの密度を0頭レベルに抑えた後に、天敵(カブリダニ類)を放飼する(平成30年9月11日付け病害虫対策資料第6号参照)。</p>						
キュウリ	べと病	多	多	178~179		キュウリ 黄化えそ病
	うどんこ病	やや多	やや多	176~178		
	褐斑病	並	並	181~182		
	アザミウマ類	並	並	190~191		
	コナジラミ類	やや多	やや多	189~190		
<p>1. <b>ミナミキイロアザミウマ: 黄化えそ病、タバココナジラミ: 退緑黄化病</b> ウイルス病の罹病株を認めた場合は、早急に除去し処分するとともに、媒介虫の薬剤防除を徹底する。また、栽培終了後は、キルパー等を用いて株を完全に枯死させた後に株を抜き取り、ガス抜きを十分に行ってから、次作の定植準備をする(平成30年11月20日付け病害虫対策資料第9号参照)。</p>						
トマト	葉かび病	やや多	やや少	225~226		トマト 灰色かび病
	灰色かび病	やや多	やや多	220~221		
	コナジラミ類	やや少	並	151~153 228~230		
<p>1. <b>タバココナジラミ: 黄化葉巻病</b> ウイルス病の罹病株を認めた場合は、早急に除去処分するとともに、タバココナジラミの防除を徹底する。</p>						

作物名	病虫害名 <sup>注1)</sup>	1月の予想発生量 <sup>注2)</sup>		病虫害防除のてびきの記載頁 <sup>注3)</sup>	予報対象の病虫害 (抜粋)
		平年比	前年比		
ナス	すすかび病	並	並	235~236	 菌核病
	灰色かび病	多	やや多	234~235	
	菌核病	多	やや多	237	
	アザミウマ類	並	やや多	154~158 241~242	
	コナジラミ類	並	並	151~153 242~243	
	<b>1. 灰色かび病・菌核病</b> 多くの圃場で発生が認められる。果実に残った花弁はできるだけ取り除き、過湿にならないよう定期的に換気を行う。特に、『PC筑陽』は花弁が残りやすいので、適宜取り除き処分する。発生を認めた場合には、発病部位は早めに除去し、防除を実施する。なお、未発生圃場では予防防除に努める。 <b>2. 茎腐細菌病・褐斑細菌病</b> 定期的に換気を行うとともに、早朝加温や循環扇の稼働により、湿度低下に努める。なお、発病株を認めた場合は発病部位を早急に取り除く。				
アスパラガス	<b>1. 茎枯病、褐斑病、斑点病、アザミウマ類、ハダニ類</b> これら病虫害は発病茎葉、刈株等で残存するため、茎葉刈取後の残さは圃場外へ持ち出し適切に処分する。また、灌水チューブに付着した泥、残渣をほうき等で除去するとともに、圃場全面をバーナーで丁寧に焼却する。				
施設果菜類	<b>1. 病害全般（灰色かび病、菌核病、すすかび病、葉かび病、べと病、うどんこ病、疫病、褐斑病）</b> こまめな換気とともに、循環扇や加温機を活用し、施設内および葉面の結露を防ぐ。特に、夜間の気温が高いと予想されるときには、加温機の送風機能や循環扇を利用し夜間送風を行う。				

作物名	病虫害名 <sup>注1)</sup>	1月の予想発生量 <sup>注2)</sup>		病虫害防除のてびきの記載頁 <sup>注3)</sup>	予報対象の病虫害 (抜粋)
		平年比	前年比		
キウ	白さび病	並	やや多	386~387	 ハダニ類
	アザミウマ類	並	並	391~392	
	アブラムシ類	並	並	393~394	
	ハダニ類	多	多	392~393	
	ハモグリバエ類	並	並	395~396	

注1) 病虫害名に網掛けをしたものについては、予報の根拠とした内容を記載しています。

注2) 予想発生量については、平年および前年との比較により記載しているため、実際の発生量とは相違を生じる場合があります。例えば、例年の発生量が少ない病虫害について「平年および前年より多い」と予想した場合であっても、実際の発生量は多くない場合があります。

注3) 防除対策については「[佐賀県病虫害防除のてびき](#)」も参照してください。

## II. 予報の内容・根拠等について

### 予報内容（来月の予想発生量）

- 平年（過去 10 年間）及び前年と比較し「少、やや少、並、やや多、多」の 5 段階で示しています。  
なお、少発生が予想される病害虫等については、予報の概要のみの記載となる場合があります。

### 予報内容の根拠

- 農業技術防除センターが実施する県内各地での調査、防除員の調査、予察灯・トラップでの誘殺状況調査等に基づく発生現況、気象予報からみた病害虫の発生条件等を基に、関係者による発生予察会議で決定します。  
○ 発生現況および気象条件が来月の病害虫の発生に及ぼす影響については、(－)：少発生、(－～±)：やや少発生、(±)：並発生、(±～＋)：やや多発生、(＋)：多発生として示しています。

### 防除上注意すべき事項

- 各病害虫を防除する上で特に注意すべき事項等を記載しています。なお、全般的な防除対策については「県防除のてびき」をご参照ください（1 ページの予報の概要にリンク有り）。

### 写真

- 1～2 ページ目：予報で対象とした病害虫を抜粋して掲載しています。  
4 ページ目以降：定期調査時の各作物の生育状況を掲載しています。

### 1 月の気象条件

- 病害虫の発生に関与する 1 月の気象条件については、福岡管区気象台発表の 3 ヶ月予報（平成 30 年 12 月 25 日）を基に、「気温：平年より高い」、「降水量：平年並」と判断しています。

気象予報による要素別確率(%)及び病害虫の発生に関与する気象条件

要素	3 ヶ月予報における 1 月の気象予報（確率予報%）			病害虫の発生に関与する気象条件（平年比）
	低い(少ない)	平年並 (佐賀市の平年値)	高い(多い)	
気温	20	30 (5.4℃)	50	高い
降水量	30	30 (56.7 mm)	40	並

### Ⅲ. 1月の予報

## タマネギ

(定期調査 18 圃場)  
調査日：12月19～20日



定期調査の圃場の様子

### 1. べと病

#### 1) 予報の内容

【早生マルチ】発生量：平年より多い（前年より多い）

【中 晩 生】発生量：平年より多い（前年より多い）

（1月に発生する可能性は低いが、苗床及び本圃で感染する可能性がある）

#### 2) 予報の根拠

##### (1) 発生の現況

##### ①定期調査（図1、図2）

【早生マルチ】 発生株率：0%（平年0%、前年0%）  
平年比：並（±） 前年比：並（±）

【中 晩 生】 発生株率：0%（平年0%、前年0%）  
平年比：並（±） 前年比：並（±）

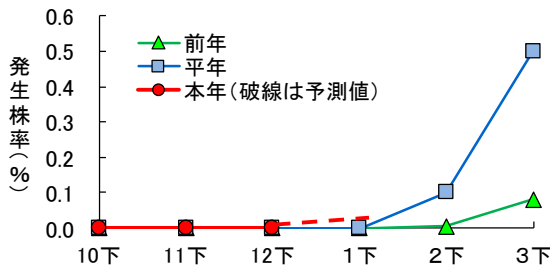


図1 早生マルチタマネギでのべと病の発生推移

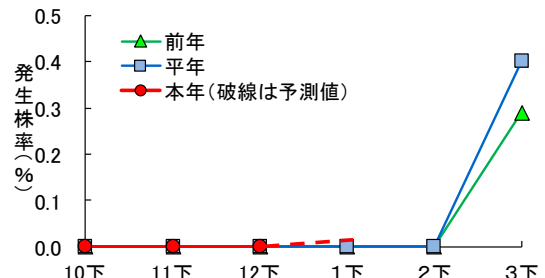


図2 中晩生タマネギでのべと病の発生推移

##### (2) 圃場の菌密度

近年の発生は多いため、圃場の菌密度は高いと推察される。（±～+）

##### (3) 12月1日～24日までの佐賀市の降雨日数は16日と多く、多発生の条件であり、感染が助長されたと考えられる。（+）

##### (4) 1月の気象条件

気温が平年より高く、降雨量は平年並で、やや多発生の条件（±～+）

#### 3) 防除上注意すべき事項

##### (1) 特記事項を参照。

## イチゴ（本圃）

(定期調査 11 圃場、防除員 6 圃場)  
調査日：12月19～20日



定期調査圃場の様子

### 1. ハダニ類

#### 1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い（前年並）

#### 2) 予報の根拠

##### (1) 発生の現況

##### ①定期調査（図1 参照）

発生株率：10.6%（平年 7.2%、前年 10.5%）  
平年比：やや多（±～+） 前年比：並（±）

#### 3) 防除上注意すべき事項

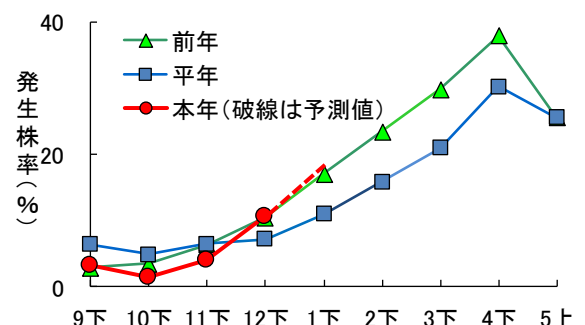


図1 ハダニ類のイチゴでの発生推移

- (1) 薬剤防除の際は、下葉や葉裏まで薬液が付着するように十分量を丁寧に散布する。
- (2) その他については、特記事項を参照。

## 2. うどんこ病

### 1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少ない（前年並）

### 2) 予報の根拠

#### (1) 発生の現況

##### ① 定期調査（図1参照）

発生株率：0.5%（平年9.6%、前年0.9%）

平年比：やや少（-～±） 前年比：並（±）

#### (2) 1月の気象予報

気温が平年より高く、やや多発生の条件（±～+）

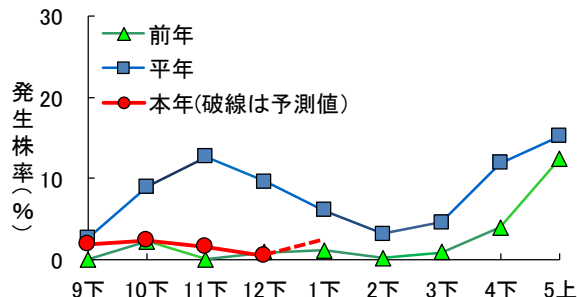


図1 イチゴうどんこ病の発生推移

### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 約10～14日間隔の薬剤防除と硫黄粒剤のくん煙処理を組み合わせる。
- (2) その他については、特記事項（施設果菜類の項）を参照する。

## 3. 灰色かび病

### 1) 予報の内容

発生量：平年より多い（前年より多い）

### 2) 予報の根拠

#### (1) 発生の現況

##### ① 巡回調査（図1参照）

発生株率：0.4%（平年0.1%、前年0%）

平年比：やや多（±～+） 前年比：多（+）

#### (2) 1月の気象予報

気温が平年より高く、やや多発生の条件（±～+）

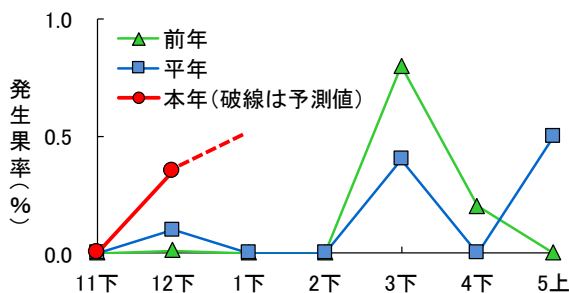


図1 イチゴ灰色かび病の発生推移

### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 受粉後に残った花卉が果実での発生の原因となるので、ブローア一等を用い定期的に花卉を除去する。
- (2) その他については、特記事項（施設果菜類の項）を参照する。

## 4. アブラムシ類

### 1) 予報の内容

発生量：平年より多い（前年より多い）

### 2) 予報の根拠

#### (1) 発生の現況

##### ① 定期調査（図1参照）

発生株率：3.3%（平年0.3%、前年0.9%）

平年比：多（+） 前年比：多（+）

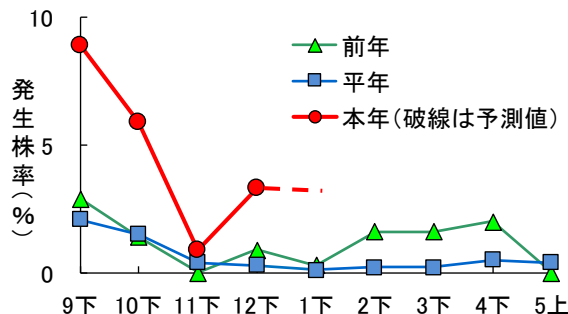


図1 アブラムシ類のイチゴでの発生推移

### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 薬剤防除の際は、ミツバチへ影響の小さい薬剤を選定する（県病害虫防除のてびき P541～544）。

# キュウリ

(定期調査5圃場)  
調査日：12月19日～20日



定期調査圃場の様子

## 1. ベと病

- 1) 予報の内容  
発生量：平年より多い（前年より多い）
- 2) 予報の根拠
  - (1) 発生の現況
    - ① 定期調査（図1参照）  
発生株率：21.0%（平年13.7%、前年8.8%）  
平年比：やや多〈±～+〉 前年比：やや多〈±～+〉
    - ② 1月の気象予報  
気温が平年より高く、やや多発生の条件〈±～+〉
  - (2) 1月の気象予報  
気温が平年より高く、やや多発生の条件〈±～+〉
- 3) 防除上注意すべき事項
  - (1) 特記事項（施設果菜類の項）を参照する。

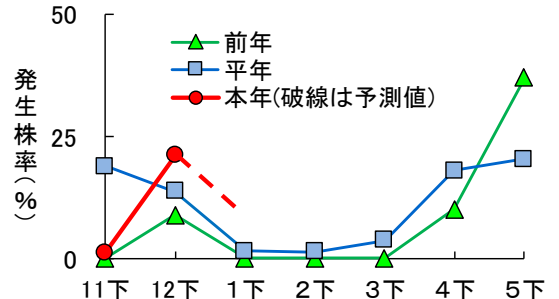


図1 キュウリべと病の発生推移

## 2. うどんこ病

- 1) 予報の内容  
発生量：平年よりやや多い（前年よりやや多い）
- 2) 予報の根拠
  - (1) 発生の現況
    - ① 定期調査（図1参照）  
発生株率：23.0%（平年17.4%、前年16.3%）  
平年比：並〈±〉 前年比：並〈±〉
    - ② 1月の気象予報  
気温が平年より高く、やや多発生の条件〈±～+〉
  - (2) 1月の気象予報  
気温が平年より高く、やや多発生の条件〈±～+〉
- 3) 防除上注意すべき事項
  - (1) 硫黄粒剤や硫黄水和剤等の耐性菌が出にくい剤を組み入れて薬剤防除を行う。
  - (2) その他については、特記事項（施設果菜類の項）を参照する。

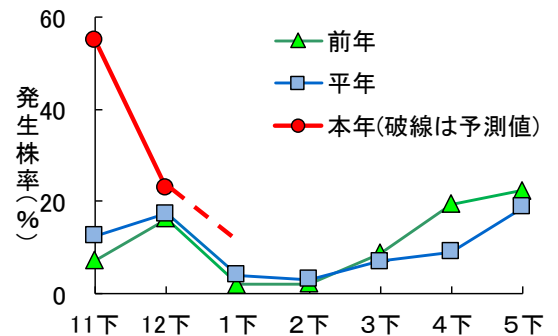


図1 キュウリうどんこ病の発生推移

## 3. アザミウマ類

- 1) 予報の内容  
発生量：平年並（前年並）
- 2) 予報の根拠
  - (1) 発生の現況
    - ① 定期調査（図1参照）  
発生株率：1.0%（平年4.8%、前年7.5%）  
平年比：少〈-〉 前年比：少〈-〉
- 3) 防除上注意すべき事項
  - (1) 特記事項を参照。

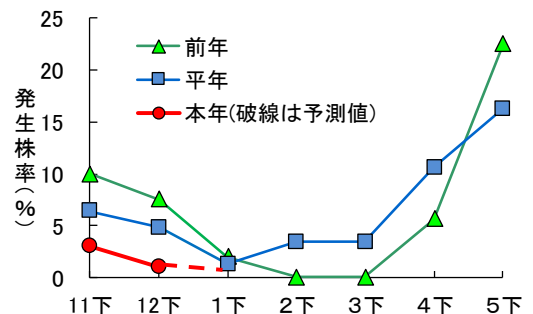


図1 アザミウマ類のキュウリでの発生推移

## 4. コナジラミ類

- 1) 予報の内容  
発生量：平年よりやや多い（前年よりやや多い）

## 2) 予報の根拠

### (1) 発生の現況

#### ① 定期調査 (図1 参照)

発生株率: 9.0% (平年 3.1%、前年 6.9%)

平年比: 多 (+) 前年比: やや多 (±~+)

### 3) 防除上注意すべき事項

#### (1) 特記事項を参照。

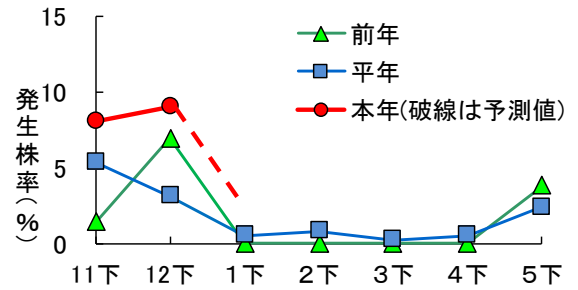


図1 コナジラミ類のキュウリでの発生推移

# トマト

定期調査: 8 圃場、防除員 6 圃場  
調査日: 12 月 19~20 日

## 1. 葉かび病

### 1) 予報の内容

発生量: 平年よりやや多い (前年よりやや少ない)

### 2) 予報の根拠

#### (1) 発生の現況

##### ① 定期調査 (図1 参照)

発生株率: 2.9% (平年 2.8%、前年 13.8%)

平年比: 並 (±) 前年比: やや少 (-~±)

#### (2) 1月の気象予報

気温が高く、やや多発生の条件 (+~±)

### 3) 防除上注意すべき事項

#### (1) 特記事項 (施設果菜類の項) 参照



定期調査圃場の様子

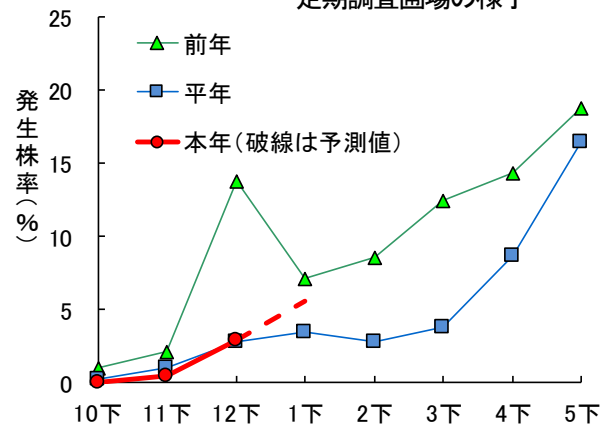


図1 トマト葉かび病の発生推移

## 2. 灰色かび病

### 1) 予報の内容

発生量: 平年よりやや多い (前年よりやや多い)

### 2) 予報の根拠

#### (1) 発生の現況

##### ① 定期調査 (図1 参照)

発生株率: 0.7% (平年 0.5%、前年 0.4%)

平年比: 並 (±) 前年比: 並 (±)

#### (2) 1月の気象予報

気温が高く、やや多発生の条件 (+~±)

### 3) 防除上注意すべき事項

#### (1) 特記事項 (施設果菜類の項) 参照

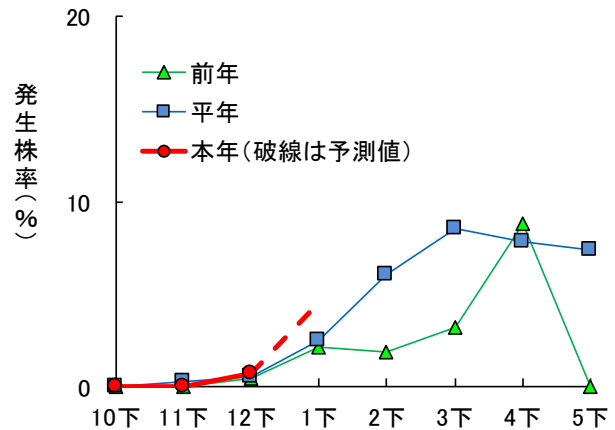


図1 トマト灰色かび病の発生推移

## 3. コナジラミ類

### 1) 予報の内容

発生量: 平年よりやや少ない (前年並)

### 2) 予報の根拠

#### (1) 発生の現況

##### ① 定期調査 (図1 参照)

発生株率: 0.4% (平年 3.7%、前年 0.4%)

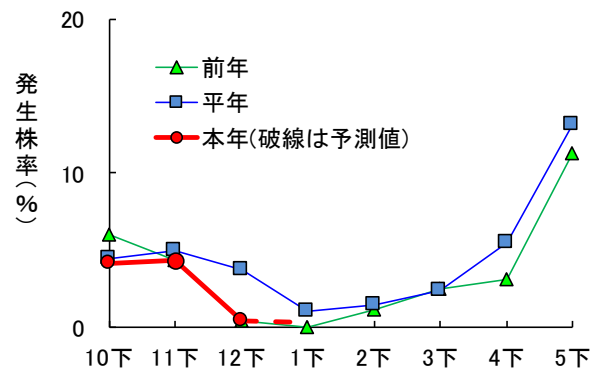


図1 コナジラミ類のトマトでの発生推移

平年比：やや少（一～±） 前年比：並（±）

### 3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。

## ナス（促成）

定期調査：11 圃場  
調査日：12月18～20日



定期調査圃場の様子

## 1. すずかび病

### 1) 予報の内容

発生量：平年並（前年並）

### 2) 予報の根拠

#### (1) 発生の現況

##### ①定期調査（図1参照）

発生株率：0%（平年3.9%、前年3.8%）

平年比：やや少（一～±） 前年比：やや少（一～±）

#### (2) 1月の気象予報

気温が高く、やや多発生の条件（±～+）

### 3) 防除上注意すべき事項

(1) 初発生を確認後、本病の発生を低く抑えるために、直ちにダコニール 1000（TPN水和剤）を散布し、約1週間後にベルコートフロアブル（イミノクタジナルベシル酸塩水和剤）を散布する。これを約1ヶ月間隔で実施する。

(2) その他については、特記事項（施設果菜類の項）を参照する。

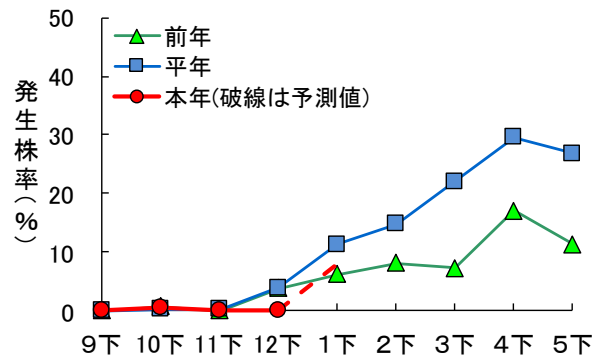


図1 ナスすずかび病の発生推移

## 2. 灰色かび病

### 1) 予報の内容

発生量：平年より多い（前年よりやや多い）

### 2) 予報の根拠

#### (1) 発生の現況

##### ①定期調査（図1参照）

発生株率：1.3%（平年0.5%、前年0.4%）

平年比：やや多（±～+） 前年比：やや多（±～+）

#### (2) 1月の気象予報

気温が高く、やや多発生の条件（±～+）

### 3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。

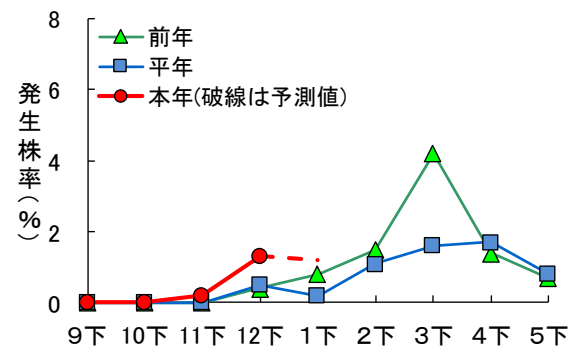


図1 ナス灰色かび病の発生推移

## 3. 菌核病

### 1) 予報の内容

発生量：平年より多い（前年よりやや多い）

### 2) 予報の根拠

#### (1) 発生の現況

##### ①定期調査（図1参照）

発生株率：0.8%（平年0.1%、前年0.4%）

平年比：多（+） 前年比：多（+）

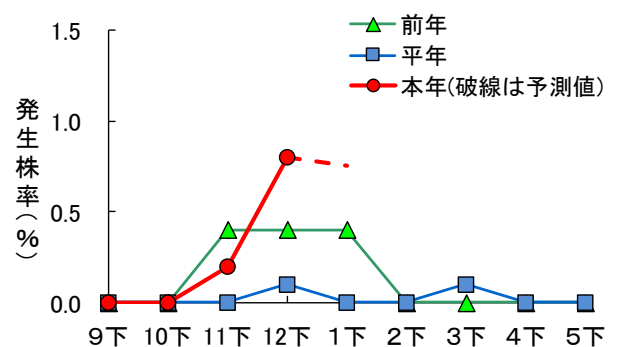


図1 ナス菌核病の発生推移



- (2) 1月の気象予報  
気温が高く、やや多発生の条件〈±～+〉

- 3) 防除上注意すべき事項  
(1) 特記事項を参照。

## 4. アザミウマ類

- 1) 予報の内容  
発生量：平年並（前年よりやや多い）
- 2) 予報の根拠  
(1) 発生の現況  
① 定期調査（図1参照）  
発生株率：14.1%（平年19.6%、前年10.0%）  
平年比：並〈±〉 前年比：並〈±〉
- 3) 防除上注意すべき事項  
(1) 葉裏や下位葉にも薬液が十分かかるよう丁寧に散布する。  
(2) 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない。

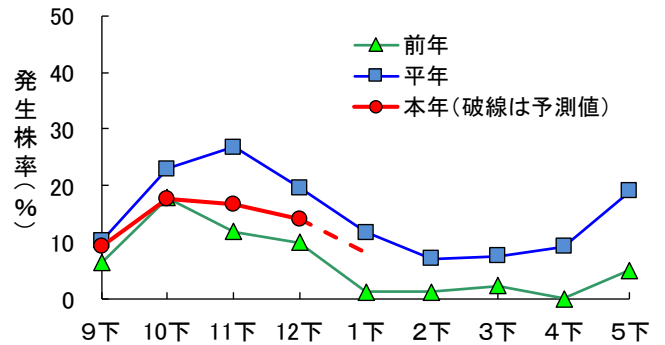


図1 アザミウマ類のナスでの発生推移

## 5. コナジラミ類

- 1) 予報の内容  
発生量：平年並（前年並）
- 2) 予報の根拠  
(1) 発生の現況  
① 定期調査（図1参照）  
発生株率：15.5%（平年23.8%、前年10.4%）  
平年比：並〈±〉 前年比：並〈±〉
- 3) 防除上注意すべき事項  
(1) アザミウマ類の項と同じ。

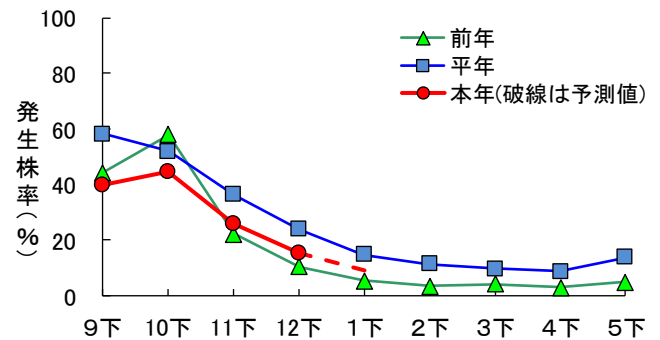


図1 コナジラミ類のナスでの発生推移

キク

定期調査（6圃場）  
調査日：12月18～20日



定期調査圃場の様子

## 1. 白さび病

- 1) 予報の内容  
発生量：平年並（前年よりやや多い）
- 2) 予報の根拠  
(1) 発生の現況  
① 定期調査（図1参照）  
発生株率1.3%（平年5.8%、前年0.5%）  
平年比：やや少〈-～±〉 前年比：並〈±〉
- (2) 1月の気象予報  
気温が高く、やや多発生の条件〈±～+〉
- 3) 防除上注意すべき事項  
(1) 施設内が多湿にならないように適宜換気を図るとともに、予防防除に努める。薬剤は、葉裏や下位葉にも十分かかるように散布する。

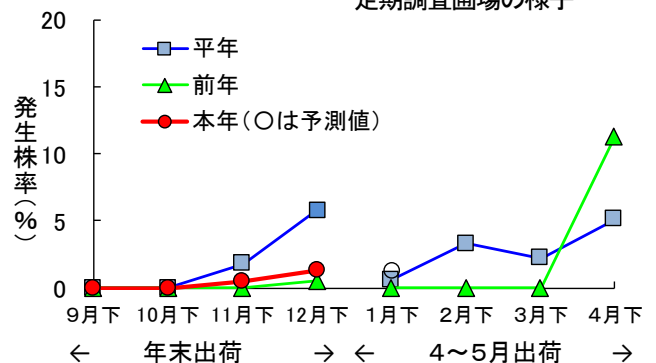


図1 キク白さび病の発生推移

## 2. ハダニ類

### 1) 予報の内容

発生量：平年より多い（前年より多い）

### 2) 予報の根拠

#### (1) 発生の現況

##### ① 定期調査

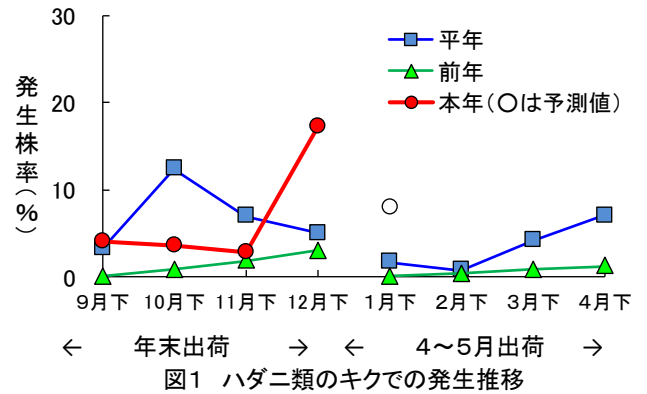
発生株率 17.3%※（平年 5.0%、前年 3.0%）

※調査した 6 圃場のうち 3 圃場で発生がみられ、  
うち 1 圃場で発生株率 88%の圃場があった。

平年比：多く＋ 前年比：多く＋

### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 発生株からの採穂は避ける。
- (2) 葉裏や下位葉にも薬剤が十分かかるよう丁寧に散布する。
- (3) 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない。



連絡先：佐賀県農業技術防除センター 病害虫防除部  
〒840 - 2205 佐賀市川副町南里 1088  
TEL (0952) 45 - 8153 FAX (0952) 45 - 5042  
Mail nougyougi.jutsu@pref.saga.lg.jp